

# 令和5年度広島県特別支援学校教育研究会 事業報告

1 会員数 1,019名

2 趣旨

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

3 研究主題

自立と社会参加に向けた個別最適な学びと協働的な学び

4 活動内容

(1) 教育研究会資料の作成等

- 特別支援学校教育研究会ホームページによる研究成果の報告
- 令和5年度広島県特別支援学校教育研究大会 大会要項等の発行

(2) 令和5年度広島県特別支援学校教育研究大会の開催

5 研究成果

本研究会は、広島県内の特別支援学校の教育の充実を目的として、平成12年に発足し、令和5年度で24年目を迎えた。発足当時、五つの障害種別で部会を設けていたが、平成17年度からは統合し、時代の変化に対応しつつ、会員のニーズに応じて、特別支援学校における今日的課題をテーマとした教育研究に取り組んできた。

近年、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。「令和の日本型学校教育」では、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実することが求められている。これらの学びを通して、幼児児童生徒の資質・能力を確実に育成する必要があるためには、新学習指導要領の着実な実施も求められている。

このような状況を踏まえ、本研究会では令和5年度の研究主題を「自立と社会参加に向けた個別最適な学びと協働的な学び」とし、各校で研究を進め、12月26日に研究大会を4年ぶりに集合開催として実施した。研究大会では、研究主題に沿った4校の研究発表や、文部科学省初等中等教育局 視学官 菅野和彦様からの「初等中等教育の動向と学習指導要領の着実な実施～学びの質を高めるカリキュラム・マネジメント～」と題した講演により多くの学びを得る大会となった。

今年度の本研究会の成果を各校で共有し、学習指導要領の着実な実施及び各会員の更なる専門性の深化を図ることで、今後の本研究会及び広島県の特別支援学校の教育のより一層の充実・発展に繋げていきたい。